



— 地域おこし協力隊が行く —

「故郷の大切さと伝統文化の復活」



川村 僚さん

甘楽町に移住してから半年がたちました。私の出身は千葉県市川市で、東京都に通勤・通学できるベッドタウンとして栄えてきた町です。甘楽町に縁もゆかりもない私が地域おこし協力隊として移住を試みたのは、スローな生き方に憧れがあり、また簡易宿泊施設を経営する夢があるからです。私を受け入れてくださった甘楽町の皆さんにはとても感謝していますし、少しでも町に何かを寄与できるように活動したいと思っています。

現在私は甘楽ふるさと館で世話になっていきます。同館で地の皆さんとお話をして、「故郷の大切さ」について深く考えるようになりまして。



ふるさと館で活動する川村さん

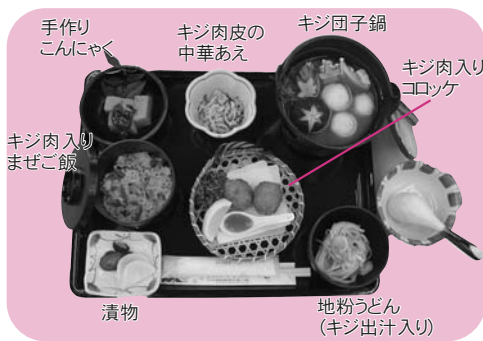
活動をしていると「故郷に元気がなくなるのは寂しい」という声を聞きます。その真意には物理的に見える元気（人口や活気など）だけではなく、地元の人の『想いのリレー』が途絶えてしまう」という危惧が含まれている気がします。例えばそれは甘楽町への愛であったり、思い出だったり…。『想いのリレー』は「町に関連する包括的な想い」ともいえます。

皆さんからの話を聞いて、私は「想いバトンのつなぎ手」にな

りたいと考えるようになりまして。

そこでかつて秋畑地区で行われていた「キジの養殖」という伝統文化の復活を試みてみようと思っております。「キジの養殖」を復活させて想いのバトンをつなぎ、新たな観光客を誘客できたらと思います。

現在同館では、この地域特有の伝統的な郷土料理であった「キジ料理」の復活を図るべく、愛媛県鬼北町のキジ肉を使用し「キジ団子定食」を提供しています。ぜひご賞味いただき、ご感想をお聞かせください。



新メニュー「キジ団子定食(1,620円)」  
※要予約

一面に広がる雪景色

2018年に入り、各地で記録的な大雪が観測されました。

甘楽町では1月22日～23日と2月1日～2日に10センチを超えるまとまった積雪がありました。桜並木では白い雪の花が咲き、雪に覆われた楽山園では美しい冬景色が見られました。



雪の中登校する児童たち

各地域の皆さんには通学路や道路などの除雪作業にご協力いただき、ありがとうございます。

